

歳入 328 億 3,846 万円

歳出 322 億 285 万円

令和5年度決算報告

小林市の令和5年度の決算がまとまりました。どのような収入があり、どのように使われたのか。そして、小林市の財政状況はどうなっているのか。歳入歳出の決算額を健全化判断比率とともにお知らせします。

●問＝財政課 Tel 23 - 1114

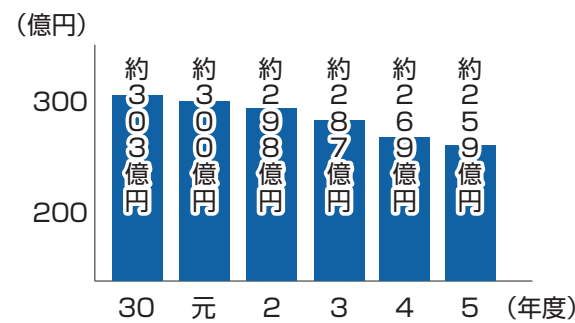
市の財政を家計に例えると

	市の財政	家 計
収入	・市税 ・地方交付税	・月収（給料など） ・親からの仕送り
支出	・人件費 ・扶助費 ・公債費 ・物件費	・食費 ・医療費など ・ローン返済など ・光熱費・家賃

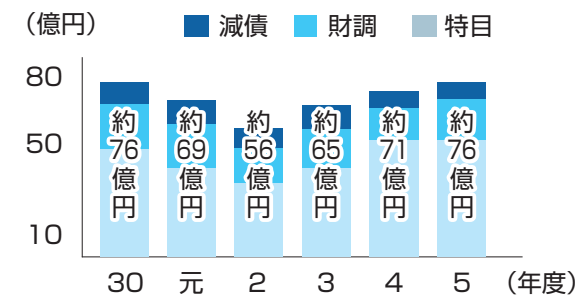
歳入の状況
歳入には市以外に頼る収入（依存財源）と市独自の収入（自主財源）があります。依存財源は、主に地方交付税や国県からの補助金、地方債などがあり、令和5年度は約219億円で全体の約67%でした。一方、自主財源は主に市税や寄附金などがあり、令和5年度は約109億円で全体の約33%でした。

歳出の状況
歳出は義務的経費、投資的経費、その他の経費に分類されます。義務的経費は支出が義務付けられます。

地方債残高の推移



基金残高の推移



けられ、削減することが難しいもののことで、人件費や扶助費、公債費のことです。令和5年度は、公債費の減少により前年度比マイナス1:4%となりました。

投資的経費は道路・公園の整備や施設の建設などを行う普通建設事業費や災害復旧事業費のことです。令和5年度は新規の健康のまちづくり拠点施設整備により前年度比プラス83・1%となりました。

ある基金残高は約76億円で、約5億円増えました。

財政目標
第2次小林市総合計画後期基本計画における2つの財政目標のうち、1つ目の基礎的財政収支は約17億円の黒字で、目標である黒字を達成しました。また、2つ目の財政調整基金残高は約18億円で、目標である令和7年度末基金残高15億円以上を達成していますが、今後の財政需要の変化等に対応するため、取り崩すことも想定されることから、動向をしっかりと見極める必要があります。

もつと“財政”を理解する

財政にまつわる用語を解説します

【地方交付税】

地域の経済格差を埋めるために国が地方に配分するお金。

【地方債】

借金のこと。今税金を払っている人だけでなく、将来利用する人にも負担してもらおうという考えに基づいています。

【財調（財政調整基金）】

災害復旧など臨時、異常の財政需要の財源に充てるための基金。

【減債（減債基金）】

地方債の償還に必要な財源を確保するための基金。

【特目（特定目的基金）】

目的の分野以外には使えない利用目的を限定している基金。

【基礎的財政収支】

借金（地方債）と借金返済（公債費）を除いた歳入歳出の収支のこと。黒字であれば、行政サービスに必要な経費を、借金（地方債）に頼らず、税金などで賄えていることを示す指標。

会計別に見る決算状況

(単位：千円)				
会計名	歳入	歳出	差引	
一般会計	32,838,468	32,202,854	635,614	
特別会計				
国民健康保険事業	6,064,999	6,015,281	49,718	
物品購入	1,309	1,309	0	
農業集落排水事業	218,973	192,579	26,394	
西諸地域介護認定審査事業	36,163	32,166	3,997	
介護保険事業	6,083,166	5,907,593	175,573	
後期高齢者医療事業	1,426,991	1,424,748	2,243	
企業会計				
水道事業※	862,908	878,424	△ 15,516	
下水道事業	509,485	510,985	△ 1,500	
病院事業	2,605,670	2,717,747	△ 112,077	

※水道事業会計については、継続審査となっています

歳入と歳出の差引

(単位：千円、%)			
区分	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額
R5	32,838,468	32,202,854	635,614
R4	30,631,769	29,673,131	958,638
増減額	2,206,699	2,529,723	△ 323,024
増減率	7.2	8.5	△ 33.7

歳入総額は328億3,846万円で前年度と比較するとプラス7.2%、歳出総額は322億285万円で前年度と比較するとプラス8.5%となりました。

物価高騰対策経費の増加等により、前年度を大きく上回る決算規模となりました。

健全化判断比率を読み解く

実質赤字比率 (単位：%)

一般会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率

R4	R5	早期健全化基準
—	—	12.83

※赤字ではないため、「—」で表示

連結実質赤字比率 (単位：%)

全ての会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率

R4	R5	早期健全化基準
—	—	17.83

※赤字ではないため、「—」で表示

実質公債費比率 (単位：%)

借金の返済額などの大きさから資金繰りの危険度を見る比率

R4	R5	早期健全化基準
11.8	12.8	25.0

将来負担比率 (単位：%)

市が抱える負債の残高から将来の財政への圧迫度を見る比率

R4	R5	早期健全化基準
67.0	70.6	350.0

令和5年度決算は、どの比率も早期健全化基準内であるため、健全性は維持されています。